



ARAUCO®

2024年6月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は早くも冬の気配となり、氷点下になる日や雨の日が多くなってきました。今年の冬は昨年より平均気温が低く、雨も多い予報となっております。銅価格は過去高値の 4.6-4.7 ドルから昨年は下落傾向が続いて、昨年後半には 3.5 ドル台あたりで底を打ち、年初からは 3.9-4.0 ドルで高めに推移しておりました。4 月から世界的に銅の需要が増えており、5 月には 5.0 ドルを初めて超えましたが、現在は高値の反動で 4.6 ドル台に戻っております。引き続き銅の価格は堅調に推移する見込みで、チリ政府は銅鉱山からのロイヤリティー収入が昨年より大幅に増えます。為替は昨年 800 ドル前半までペソが買われましたが、夏場になり 940 ペソ安ドル高まで進み、昨年後半からは再び 900 ペソ台前半で落ち着いております。

2. 世界市況

昨年秋のイスラエル、ガザ地区進行に伴うベルシヤ湾の船舶迂回措置により、ホワイトウッド下級材が中近東や韓国で入荷減、コスト高が続いております。チリからのラジアータパイン材は安定供給、コスト安でしたが、昨年 2 月の大規模森林火災による丸太不足で中小製材工場の閉鎖が増えており、韓国向けの製材輸出は大手を除いて丸太を 100%確保出来ない製材工場も出てきました。

5 月にチリ最大手サプライヤーは 4 月より 30%以上の数量を韓国向けに完売をしており、中近東は石油価格の上昇と共に物流向け材が好調で欧州、バルト 3 国からの代替材として引き続きチリラジアータパイン材の引き合いは強い市況が続いております。

アラウコにて先月より閉鎖を検討しておりましたエルコロラド工場（2 番）は 5 月末にて全面閉鎖となり、約 25 万 m³（年間）の生産数量が 6 月より無くなります。

南部のバルデビア工場（8 番）は森林火災の影響がありませんでしたので、6 月より 30% 近くの生産数量をカバー出来る見込みです。他の製材工場はまだ丸太不足もあり現行からの増産体制は未定で、今後生産数量がタイトになることも予想されております。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年5月配船(2番船)は船社をベルトリング社からNYKに変更した影響もあり、現地出港が遅れて当初予定の5月前半から5月21日にチリを出港しました。

川崎入港は7月1日を予定しており、名古屋、大阪へ寄港しますが、4月入港の1番船から約3ヶ月の間隔になります。

2024年6-7月配船(3番船)は、6月に韓国向けコンテナ生産と7月前半に中近東向けバルク生産を優先する為に日本向け生産が間に合わず。配船スケジュールは最低でも10日以上は遅れる見込みで、日本入港は8月後半から9月になりそうです。

b) チリグリーン材市況

梱包需要は5月連休明け以降も4月同様に停滞をしており梅雨のシーズンを迎えます。地域によっては5-6月に1000円、7-8月に1000円で2回に分けて値上げを実施したい方針と為替の円安ドル高傾向が加速しており、物流コストも上昇しているため、一度に8月までに2000-3000円の値上げを実施したい方針になっております。

しかし国産杉製材との価格差が変わらず、半導体装置関連では合板、LVLとの競合もあり、チリ製材の値上げが厳しい市況になっております。

各社の在庫水準は約3ヶ月の適正在庫ですが、2番船の入港が7月以降に遅れますので、今後はサイズによって在庫不足になる可能性が高くなりました。

チリ大手サプライヤーは、丸太不足、高騰するエネルギー代、高止まりしているバルク船運賃、中近東や韓国の買い意欲が強い為、日本向けの製材価格を下げる方針はありません。今後スエズ運河の迂回措置がなくなり、中近東や韓国市場にホワイトウッドが流入しやすくなれば、チリへ買い意欲は落ち着くと思います。しかし韓国市場はNZ丸太挽きからチリ製材への転換も続いており、チリの中小製材工場からの供給減もあり、引き続き大手サプライヤーへの買い意欲は継続する見込みです。

c) アラウコ乾燥材(KD)

日本向けKD製材の主力工場であるエルコロラド工場(2番)は最終的に5月末で全面閉鎖になりました。ヌエバルディア工場(12番工場)のKD生産ラインは22mm以上の厚物KDを日本向けへ生産しております。しかしKD材は他のチリサプライヤーから日本向けへ参入はなく、薄物KD材の供給は終了する見込みです。国産材KD薄物材も安定供給する製材工場は少なく、チリKD材の代替材で安定供給出来るサプライヤー、製材工場はまだ見つかっておりません。一部の地域でアルゼンチンのタエダパインを代替材として検討をしているユーザーも出始めております。初期のタエダパインは内装部材と同じ乾燥プログラムでしたので、過乾燥によるひび割れや釘打ちに問題がありました。現在はチリと同じ梱包用の乾燥プログラムで改善をしております。しかし仕組み材(CC)が出来ないので、今後設備を導入するか注目されております。以上